

2020年2月25日

日本銀行帯広事務所

## 十勝の金融経済概況

### 1. 全体感

十勝の景気は、持ち直している。

すなわち、公共投資は、緩やかに増加している。設備投資は、高水準で推移している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。個人消費は、弱めの動きが広がっているものの、基調としては緩やかに持ち直している。生産は、持ち直している。雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

足もと新型コロナウイルス感染症の影響がみられており、先行きについては、その影響の広がりを注視していく必要がある。

### 2. 最終需要の動向

公共投資は、緩やかに増加している。

1月の公共工事請負金額は、9か月振りに前年を下回った。

設備投資は、高水準で推移している。

主要企業の19年度の設備投資は、前年を下回る計画となっている。この間、農業関連などでは、引き続き新規投資がみられる。

12月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年を下回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

12月の新設住宅着工戸数は、持家が前年を下回った一方、貸家が前年を上回り、全体でも前年を上回った。

個人消費は、弱めの動きが広がっているものの、基調としては緩やかに持ち直している。

12月の主要小売店の売上高は、衣料品が暖冬の影響や消費税率引き上げに伴う駆け込みの反動などから前年を下回ったほか、食料品、身の回り品も前年を下回り、全体でも前年を下回った。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数、1月）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体でも前年を下回った。

12月の家電販売は、パソコンが好調であった一方、季節性商品やテレビ、白物家電の売れ行きは低調であった。

旅行・観光関連をみると、12月の市内ホテルの宿泊人数および主要温泉地の宿泊人数は、北海道ふっこう割の効果により増加した前年の反動を主因に、前年を下回った。また、12月のとちぎ帯広空港の乗降客数も、前年を下回った。

### 3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、持ち直している。

12月の生乳生産量は、15か月連続で前年を上回ったほか、12月の乳製品生産量も、好調な生乳生産を背景に4か月連続で前年を上回った。一方、12月の産糖量は、前年を下回った。

12月の製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

12月の有効求人倍率（常用）は、22か月連続で前年を上回った。

企業倒産は、概ね落ち着いた動きを示している。

1月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、倒産件数は前年並み、負債総額は前年を上回った。

### 4. 金融情勢

帯広市内金融機関の実質預金残高（12月末）は、流動性預金を中心に増加している。

貸出残高（12月末）は、前年を上回った。

貸出約定平均金利（12月末、総合）は、銀行、信金ともに前月を下回った。

以 上